

## 令和元年度 海事科学部学生後援会 行事 Q&A

※ 類似したご質問・ご意見・ご要望については、まとめて記載させていただいております。

### 【履修・授業・教育について】

Q-1. それぞれの学科の内容や研究内容、学科が決定するまでの流れについて教えてください。

A-1. ・それぞれの学科・コースの内容については、海事科学部のウェブサイト

[www.maritime.kobe-u.ac.jp/admission/sp/about/index.html](http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/admission/sp/about/index.html)

やパンフレットに記載していますので、そちらでご確認ください。

・学科が決定するまでの流れは、以下のとおりです。

例年 1 年次の 11 月上旬（今年は 11/8）に学科・コース配属説明会を行い、12 月中旬（今年は 12/13）までに配属申請書に第 4 希望まで記入のうえ、提出していただきます。学科・コースの配属は、学生の希望、1 年次の GPA、修得単位及び TOEIC の成績、各学科・コースの定員を勘案して 4 月初旬（4/2 発表予定）に決定いたします。各学科・コースでは、配属申請締切日までに、1 年生に対して説明会を開催し、各学科・コースの内容を詳しく知ってもらう機会を設けております。その他、不明な事項があれば、遠慮せず 1 年生の学級指導教員に問い合わせるようご子息・ご息女にお伝えください。

Q-2. ・子どもは将来航海士になることを選択肢の一つとして航海実習に参加しています。必修科目の先生についての質問です。授業や実験にも参加しているようですが、特定の先生の単位に限り単位の取得ができていないようです。本人も理由がわからず卒業を危惧しているようです。他の先生の科目は単位が修得できているのにもかかわらず、お一人の先生の単位のみ複数科目において単位不認定の状態が二回生から続いており、親としてもとても心配しております。来年の就職活動へ影響してきますので、何か対応策がございましたら御指導いただきたくお願い致します。

・必修科目について、先日子供から単位を落とすと伝えられました。実は前年度 2 回生の時にも単位を落としていて、今年再履修であったのですが、子供は毎回真面目に出席し、授業に取り組んでいるが、試験や課題の答えがわからない、課題の解説が一切なされないといった様子でどう取り組んでも受かる気がしない、大変困っていると申しておりました。解法も解説されなくてどうしていいのかわからないとの事。子供に確認したところ、教務には申し出ていない様でしたので、どういった訳で不可になったのか、不明のようですが、自分だけでなく、かなりの数の学生が、毎年不可となっているようで、大人数で講義を受けているとの事。他の科目については、良い成績をいただいているので、なぜその科目のみ全く合格できないのか、本人もとても悩んでおります。せめて、答えの解説などで学生に理解させるべきではないかと思えます。今後の講義のあり方、試験のあり方について、多数の学生が不安に感じているのではないかと思います。勉強法が悪いのであれば、どういうふうに取り組むべきか、ご教受いただけますようお願い申し上げます。

A-2. 本学では、各授業科目の成績評価について、Web（うりぼーネット）上のシラバスにおいて「成績評価基準」と「方法」を公表しております。これら成績評価基準と照らし合わせても不可の理

由が分からない場合は、担当教員へ直接お問い合わせください。また、成績発表後には成績評価に対する問い合わせ制度も設けられております。詳細は、教務学生グループの窓口にお問い合わせください。

Q-3. ・2021年4月より「海洋政策科学部」を創設と、新聞で知りました。この学部は、新入学生のみが対象になるのでしょうか。現在在籍中の学生は、学部を変更する事で学ぶ事が出来る可能性があるのでしょうか。今後どのような学科編成になるのか知りたいです。

・新聞発表にあった海事科学部改編後、現役学生の配属はどうか知りたいです。

A-3. 7月に学長が発表しましたとおり、本学では2021（令和3）年4月に新学部設置を予定しております。新学部が設置されても、海事科学部及び学科はそのまま存続しますので、現在本学部に在籍中の学生の配属に変更はありませんし、卒業に必要な科目が入学時から変更されることは原則としてありません。また、新学部は2021年度入学生から受入れを開始する予定ですので、在籍中の学生が新学部へ所属を変更することはできません。

#### 【学生生活・就職等について】

Q-4. それぞれの学科の進路（就職先など）について知りたいです。

A-4. 大学で把握している内容は、別添進路状況一覧のとおりです。

Q-5. ・子どもは大学院に進みたいとこの夏はインターンシップ等にも行かず、就職のことは考えていないようです。大学院にはどの位の割合の人が進めるのでしょうか。かなりの難関なのでしょうか。大学院に進む際の手順等教えていただきたいです。又、もし大学院への進学ができなかった場合のフォローはしていただけるのでしょうか。

・（進学する）研究科を子供が自分で決めて勉強しているのですが、どの研究科が就職しやすいとかありますか？院に行った方が就職できやすいとかありますか？

・進路内定状況のレジュメについて、就職内定先が詳細に記載されているのに比べて大学院進学予定者の進学予定先が記載されていません。社会に送り出した人数をアウトカムとして公表するのは当然かと思えますし、海事科学部の教育を受けて、学問的のどのような道を進もうとしているのかをディスクローズすることも大変重要なことと考えております。是非本年のレジュメに掲載していただきますようお願いいたします。また、他大学から海事科学研究科へ進まれた方についても参考として掲載いただければ、より保護者の理解も深まります。

A-5. ・大学院への進学率については、別添進路状況一覧のとおりで、今年度より大学院進学予定者の進学先も掲載しました。なお、大学院では主に研究を行いますので、学生は自分が研究したい内容に従って進学先を選択することになります。学部での研究を深めることも多いことから、同じ教員の研究室で継続して学ぶことのできる海事科学研究科を選択する学生が多くなります。研究分野が細分化されている理系では、他の学部・他大学でも同じ傾向と思われます。なお、進学するには入試を受けて合格する必要があります。

海事科学研究科では、推薦入試（7月）と一般入試（8月・12月）を行っており、実績は別添のとおりです。なお、入試が不合格となり大学院に進めない場合は、就職活動をするか、

他の大学院を受験して進学するか、翌年度に本研究科を再度受験することになりますが、大学としては、入試の可否に関わりなく在学生に対してフォローを行っています。

- 大学院生の就職率については、別添資料のとおりです。学部卒業者と研究科修了者で就職率にあまり違いはありませんが、研究科の修了者には、より高度な知識が求められる職域からの求人がありますので、就職先が同じでも職種が異なってくることもあります。学生ご自身が、将来どのように働きたいのか、じっくり考えた上で就職か進学かを選ぶ必要があります。本学部では、夏季休業期間中のインターンシップや海外インターンシップ、3月の合同会社説明会等を実施する等、学生への就職活動に対して様々な援助を行っており、研究科に進学されても同様のサポートを行っています。

Q-6. 子どもは大学の図書館を比較的良好に利用させていただいているのですが、試験前の一時期以外はあまり利用者が混み合うことがないようです。混み合うことが良いことではありませんが、せっかく国立大学の中でも有数の蔵書があるのに勿体ないと思います。利用に関してリサーチを行い、ニーズを把握するとともに、より利用される図書館づくりを進められたらどうでしょうか。

A-6. 図書館をご利用いただいているとのこと、ありがとうございます。また、貴重なご意見ありがとうございます。当館では年4回程度の企画展示を2階開架室にて開催し当館所蔵資料の紹介を行い、全1年生を対象に初年次セミナーにて館内ツアーや情報検索実習などを実施し、図書館の利用促進に努めております。今後も利用者ニーズに沿ったサービスに努めて参りますので、図書館運営にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

Q-7. (深江キャンパス) 4号館のWi-Fiが繋がらないそうですが、改善できますか。

Q-7. 深江キャンパス4号館のWi-Fi環境は教室により異なっております。現在、大学全体で教室内の無線LANアクセスポイントを増設する工事を進めており、4号館もその対象ですが、予算上制約があることから、順次工事に着手して改善していく予定です。

Q-8. 深江キャンパスの学生食堂ではゴキブリが死んでいるそうです。衛生面は大丈夫でしょうか？改善できますか。

A-8. <生協より回答>

誠に申し訳ございませんでした。不快な思いをされたことと思います。生協食堂では、ゴキブリ駆除として、害虫駆除業者に依頼をし、①毎月、薬剤設置と捕獲シートの点検、②年1~2回薬剤空間噴霧、を実施してもらっています。これらの駆除後、死んだゴキブリかと思われます。今後、開店前のホール掃除時、ホールの点検をよりしっかりするようにいたします。また、厨房の閉店時の掃除もより丁寧に行うようにいたします。

衛生面につきまして、食堂は衛生管理が基本と考えております。大学生協衛生管理マニュアルに沿って、毎日のアピアランスチェック、温度チェック、消毒、手洗い、毎月の検便の実施を徹底しています。また毎年、外部業者による衛生チェックと改善、および衛生講習会の実施等、衛生管理がより向上するように尽力しております。

今回のご指摘も含め、より一層、衛生管理の改善を進めてまいります。

Q-9. 深江キャンパス内にATMが欲しいそうです。設置をお願いします。

A-9. 深江キャンパスは、徒歩圏内に郵便局や銀行、コンビニ等のATMが設置されているため、そちらの利用が可能です。また、昨今のキャッシュレス化を受け、各銀行ではATMの統合・廃止が進められていますので、新たなATMの設置は難しいと判断しております。

#### 【その他】

Q-10. 子どもから、海事科学部の先生方が幅広い分野で先端分野の研究や社会に広く貢献する研究を行っておられると聞いております。しかしながらそのことがあまりアピールできていないように思われます。HPを拝見しても、何か賞を受けられたときとか、テレビで紹介されるときにいつ紹介されるかの告知に留まっています。例えば、神戸大学広報誌「風」の「研究ズームアップ」は大変わかりやすく興味深く内容が伝えられていると思います。このような記事を作成し、HPに掲載することで多くの方々に海事科学部を知ってもらい、興味を持ってもらうことが出来ると思います。情報化、IT化の時代ですので、冊子を作成する経費を魅力的なHPづくりにまわしてみてもどうでしょうか。

A-10. 貴重なご意見をありがとうございます。海事科学部の広報やアピールに関しては、本学部の広報社会交流推進委員会が中心となり、外部組織や高校等に向けて発信してきました。

我が国にとって海の活用は重要であり、海上輸送や海事産業に関係する業界は幅広く、技術力は世界をリードしており、日本国内ではその知名度が一見低いかもしれませんが、世界的に輝いている企業が多数あります。本学部・大学院で海洋や海事を学んだ卒業生・修了生が、海に関する様々な業界で活躍され、日本や世界に貢献されることが、本学部・研究科にとって有効な知名度アップや広報につながりますので、そのような活躍ができる学生の育成に向けた教育を引き続き行って参ります。

しかしながら、同窓会組織等からも、「大学のアピール力が足りない」との励ましをいただいております。神戸大学としても外部に対する情報発信は今後ますます重要であるとの認識から、11月5日に東京にて学長がプレス発表をいたしました。その内容は、ご存じのように、他大学にはない神戸大学の大きな特色である「海に開かれた総合大学」を前面に押し出したブランディング戦略である「海の神戸大学」です。現在、そのブランディング活動として、手塚治虫氏が生み出した「海のトリトン」をイメージキャラクターとした「海神（かいじん）プロジェクト」が始まったばかりです。その中身は、海事科学部を発展的に解消し新設する予定の「海洋政策科学部（仮称）」、「海共生（うみともいき）研究アライアンス」、そして新造する「最新鋭の探査機能を有した練習船」と、深江キャンパスが中心となって神戸大学全学として取り組む、海をキーワードとした研究教育活動の実態を、有機的にわかりやすく一般社会に向けて広報していくことです。

今後の「海神プロジェクト」の動向を注視していただきながら、その取り組みについて、今後とも貴重なご意見を賜りたく引き続きよろしくお願いいたします。

「海神プロジェクト」URL：<http://www.org.kobe-u.ac.jp/kaijin-pj/>

Q-11. 教育研究費は各学科とも充分にあるのか、現状と今後の展望について知りたいです

A-11. 教育研究費を、各学科に配分するような仕組みはありません。ご承知のとおり昨今の国立大学

を取り巻く経済状況は厳しく、本学も同じ状況です。「教育」及び「研究」というものは、その性質上際限がないものですので、「充分にある」とお答えすることはできません。本学としては、科学研究費補助金や大型競争的資金等の獲得に向けての情報収集活動を強化し、申請書作成支援等の各種支援策について全学的に拡充するなど、競争的資金の獲得額を増加させる、寄附金による自己収入の増加を図る等の努力を重ねております。本学部（研究科）においても、外部研究資金獲得のため、科学研究費補助金や他省庁研究費補助金などへの申請数を増加させるとともに、受託研究費や奨学寄附金の増額を図って組織的に改善・努力を行っております。

Q-12. 2回生が日本丸で1ヵ月実習する2020年の夏は、東京オリンピックとウラジオストックのセールレガッタがあります。神戸大学の実習生が国内外の国際的な大きなイベントで海洋国日本の代表として日本丸で登樁礼、セイルドリル、一般公開（船内案内）練習帆船ならでの国際親善・交流に貢献することができるように、横浜の初代日本丸、富山の初代海王丸で展帆ボランティアの養成訓練、神戸湾寄港停泊時の日本丸で英語、ロシア語での船内案内の事前研修、日本丸を愛する男声合唱団による合唱指導を乗船前に受けさせていただきたいです。（展帆ボランティア養成訓練、船内案内事前研修、合唱指導を受けることを条件に登樁礼、セイルドリルを経験できなかった今年の2回生、3回生、実習科卒業生の希望者も海王丸の海洋研修生のように多少の実費負担で乗船可能にして欲しいです。）

A-12. 貴重なご意見ありがとうございます。帆船（日本丸・海王丸）および汽船（青雲丸・銀河丸・大成丸）による乗船実習は、本学から（独）海技教育機構（JMETS）に実施を依頼して学生を実習生として送り出し、JMETSにおいて実施されます。JMETSでの乗船実習の内容は、国際条約（STCW条約）および国内法（船舶職員および小型船舶操縦者法）の規定に則り、船舶職員養成に必要とされる一貫したプログラムとして国土交通省の認可を受けており、乗船実習1月日から6月目（本学2年生、3年生）の内容に、登樁および繰帆は含まれません。なお、登樁・繰帆が7月目に至るまで実施されないことは、1952年の神戸商船大学開設以来、70年近く変わりありません。ご提案の内容は本学で対応できる事項ではないことから、本学からJMETSに、学生家族からのご要望の一つとして伝えます。